

## 4 ブラジルにみる開発と環境保全

### ○熱帯林の開発

アマゾン川流域の開発

19世紀：中流域のマナオスを中心に、ゴムの大農園がつくられる

20世紀後半：経済発展を目的に大規模開発が進められる

鉱山の開発	( )を伐採し、鉄鉱石を運ぶ鉄道が開通
アマゾン盆地の開発	アマゾン盆地を横断する道路が開通→熱帯林を伐採、木材の輸出
伐採地の跡地	牧場や農地に変えられ、肉牛の飼育や大豆を栽培
アマゾン川支流の開発	電力需要の増加により、ダムの建設→熱帯林の水没

### ○熱帯林の伐採による影響と保全の取り組み

熱帯林の伐採の影響

熱帯の強い雨で土壌の養分が流される

植物の光合成による二酸化炭素の吸収量が少なくなる

→( )が進むと考えられる

貴重な動植物の絶滅や、先住民の生活が脅かされる

アマゾン川流域の熱帯林の保存

- 一部を国立公園や世界遺産の保護地域に指定
- 違法な伐採を人工衛星から監視する仕組みを導入

### ○環境保全をめぐる新たな課題

ブラジル：( )で走る自動車の普及

→サトウキビの生産が増える一方、土地の開発による環境問題が起こる

※( )とは、植物からつくられる燃料のこと。環境にやさしいエネルギーとして注目される

〔課題〕 開発と保全のバランスをとること